

平成 30 年度第 3 回古賀市スポーツ推進審議会【子ども部会】 会議録
(要約筆記)

(座長)

・配布資料に基づいて、事務局より議事の進め方、内容について説明を願う。

(事務局)

・今回第 2 回目の部会では、「10 年後の古賀市の子どものスポーツ環境はどうなっているか、どうなっていてほしいか」と、それに到達するためのアプローチ方法等について協議いただき、ご意見を付箋に貼り出していただくをお願いしたい。次回の審議会では、各部会にまとめた意見を報告していただく予定である。

(座長)

・子どもの「スポーツ環境」とあるが、環境だけではなく、意識というところも含めて考えていってよいと思う。10 年後というと、今の小学 1 年生が中学 3 年か高校に上がる年齢となる。そういうところをイメージしながら、どういうところにスポーツの力が生きていくかを考えてご意見を頂きたい。

(委員)

・普段は小学生と関わることが多い。また自分の子どもは現在 2 歳半。10 年後はどうなっていくのか。

(事務局)

・幼児期、小学校低学年、高学年、中高生といった年齢層に応じて、大人の関わり方も変わってくる。

(委員)

・計画として 10 年先を見据えたとき、何か数値を達成していくようなことを描くのか、それとも例えばスポーツをする環境が整備されていくとか、子ども達が自発的に活動をするとかで、書き方は変わってくると思う。10 年後に何をもって達成できたかとするか。

(座長)

・例えば部活動の加入率を何パーセントでみるのかとか、スポーツ団体の加入率が何パーセントになるのかとか、ポイントを上げていく目標というのも可能にはなってくると思う。ある程度の何かは必要と考える。

(委員)

・古賀市民の誰もが、古賀市ってスポーツが盛んだと思ってもらえるようなものをゴールにするのが良いのかもしれない。

(座長)

・実施したアンケートでも、数値がしっかりと出てきている。こういうようなものが計画の中に盛り込まれるのかで出し方も違ってくる。例えば外遊びや運動がこの 5 年間で減少傾向にある、だから外遊びを推奨して 70～80%に上げようとか、そのためにはどんな手法があるかとか。
・ベースはこれらの数値を 10 年後は改善していく、そのための手立てはということを書き出していくということによろしいでしょうか。

(委員)

・自分は、子どもを家の中でもいろいろな遊びとか、走らせたりとかしている。
・子どもと一緒に遊ぶというのは、家庭教育だと思う。家庭教育でどれだけ出来るか。遊ばせるのに、親が子どもを預けたりするのは駄目だと思う。

(座長)

・親がスポーツに対する意識があれば子どももする。子どもが何を好きになるかは親がやっているかによる。魚釣りをやる親は子どもを連れて行って一緒にする。子どもにそういう仕掛けを親がしているのかどうか、その影響は大きい。

(委員)

・子どもをいろいろなサロンに連れていくとき、その場所ごとで似たような人たちが集まっている。探している人は、いろいろなところに行っているのだと感じる。
・子どもを連れ出していくのにも、エネルギーが要ると思う。

(事務局)

・連れ出して来ない方々に出てきてもらう、そのための仕掛けづくりが大切だと思う。

(座長)

・古賀市はグリーンパークもあり、子どもが遊んだり、遠足の場所としても活用があったりする。

(事務局)

・そういう場所を活用して、親子で来ていただく方策を考えたい。

(委員)

・ここでいう「子ども」はどこまでの年齢層を考えるといいか。高校生ともなると、アプローチも変わってくるが。

(座長)

・ここでイメージしておくのは、小中学生くらいまでと思う。古賀市の環境で生活していく中でということで、高校生になると市外に出ていくなど生活範囲が変わってくる。

(委員)

・学校教育でやるところと社会体育、幼稚園でやるところとはまた違ってくる。

(座長)

・前回の会議の中で、総合型地域スポーツクラブの取組はされたけれどもなかなか実現に至らなかったということでしたね。

(事務局)

・ジュニアスポーツ団体はたくさんあるが、交わることなく個別で活動している感がある。

(委員)

・ジュニアスポーツは数が多くて種目も多い。行政は把握してなくて、ひよっとしたらスポーツ少年団みたいに活動しているところがあるのかもしれない。地域のボランティア活動に参加したり、他のスポーツもやってみたりとか。また指導者はどんな指導をされているのか、どんな研修を受けているかなど把握しないと、分からない部分も多い。古賀市版のスポーツ少年団のようなことを、ひよっとしたらもうやっているのかもしれない。

(座長)

・うちの地域でもサッカー、バスケ、バレー、とあるが段々加入率は低くなっている現状で、周知の場を作ってほしいという声も聞く。周知は子ども向けでなく、親向けに行ってほしいと言われる。

(委員)

・企業がやっているスポーツ教室が増えてきていると聞くと、月謝を払えばあとはやってくれる、指導者もあまり怒ったりしないということで、親も参加させやすいし、試合の送り迎えもなく親の負担がなくてよいと、今はそういう形が多くなっている。チラシなどでもそう書いてあるのを多く見かける。送迎バスが出るなど、今は変わってきているようだ。
・中学生でも、部活ではなく社会体育の方に行くという子どもは増えているのだろうか。

(座長)

・増えているかどうかは分からないが、毎年結構な数はいるようだ。
・中学校教師は基本的に全員が顧問になっていて、負担が偏らないようになっている。

(委員)

・古賀市の外部指導者は、登録制になっているのだろうか。福岡市では、研修を受けた人に委嘱するとなっているようだが。

(事務局)

・研修を受けないと出来ないとかの縛りは無いと思うが、出来る方に学校の方から声をかけて連れてきているのが現状のようだ。

(座長)

・雑談のような形になるが、項目「外遊びの推進」について、ご意見をいただきたい。

(事務局)

・現在お配りしている資料は、前回課題や方向性について頂いた意見を集約したものだが、これがそのまま10年後になってほしい姿に結びついていると思っている。

(座長)

・幼児の段階では、「親子で遊んでいる姿をたくさん見れる場所がたくさんある」「公園に行ったら土日は親子でお弁当を持って来ている」そういう環境が出来ているのがよい。
・古賀市全体の見方で考えると、例えば「8小学校区を1週間ずつ回る」元気アップチャレンジのような、その親子版が出来るとよい。学校単位で回ってきて、そこに親子で行けるような形がよい。

(委員)

・自分は小野小学校の元気アップチャレンジをしていて親子に呼び掛けているが、小学生になると親があまり来ない。親が来るのは幼児までなのかなと思っている。
・親子でキャッチボールとかだったら、きっと父親もすると思う。種目を変えたり、分かりやすくしたりするなど工夫がいる。
・「運動教室」だとちょっと違ってくると思う。

(座長)

・「運動教室」ではなく、「遊び」がやはり大切だと思う。そこで遊んだことを、家に帰って家の前でやる。ポイントポイントでやったことが、家庭に繋がっていくというのがよい。

(委員)

・古賀市の「でんでんむし」のような、いつ来ても開いていて、運動や遊びが出来るような形にするとよいと思う。その時にいる指導員のメンバーで何かやるという形がよい。

(座長)

・「外遊びの推進」→「遊びの推進」でいいのでは。その遊びはメディア関連というのではなくて、体を使う遊びの推進ということである。実体験の遊びが大切である。

(委員)

・こういう、親子でやるというのは外せないと思う。

(座長)

・「遊びの推進」とすると、ここではまだスポーツではないのではないか。スポーツに繋がる、体を動かすことが好きな子どもが増える、そのための準備をしっかりとここでやるということだと思う。
・そのために親と一緒に遊んでほしいし、安心して遊べる場がほしいし、遊びの指導が出来る人や見守ってくれる人が、いてほしい。
・何でもいいので、遊びを楽しむ家庭が10年後は増えているとか、遊びの場が増えているとか公民館で遊ぶ子どもが多くなったとか、学校でも遊具を使って親子で遊ぶ姿が10年後は増えているとよい。

(委員)

・小学校の体育の研修などはやっているのですか。

(座長)

・どういう力をつけさせるのか、それにはこういうのを取り入れた方がいいなどの研修を行っている。

(委員)

・そういうのを例えば保護者向けに取り入れると面白い。親は実は聞きたいと思う。学校の先生が研修で受けてきたことを、教え方のコツなど還元してもらえるとよい。

(座長)

・そのような学校からの周知とかアプローチというのは、学校体育の項目の「小学校低学年の基本的な動きの習得」というところにも繋がると思う。

(委員)

・子ども達も、家である程度基礎を知ったら、あとは自分たちで展開していける。

(座長)

- ・学校体育の部分で、前会議で「ベースは歩いて登校」と言ったが、やはり体力づくりの基本は歩きだと思う。小学校段階は、歩いて来る子を多くしていきたいと考えている。中学校は自転車通学で、自転車でも脚力がつくが、小学校の間は歩くことによる脚力を伸ばし、車で送迎というのは減らしていきたい。そういうところで子どもの体力は維持されていくのだと思っている。
- ・青柳小学校キャラバンをはじめとした、「1 学校 1 取組」はよい取組である。6 年間を通した取組、それが中学校へも繋がる形であるとよい。
- ・キャラバンでは保護者も一緒に参加して、荷物を持ちたりして歩く。聞くと「歩く練習をしました」とおっしゃっている。子どもと一緒に関わる時間を作っているのだと思う。
- ・青柳小にいた先生が別の学校に行かれても、その学校でキャラバンが広まらない。青柳小では地域の力が強かったと感じている。先生など学校の力だけではない。
- ・部活動は、指導者の力が占めるところが大きい。

(コーディネーター)

- ・話の途中でですが入らせていただきます。子どもの 10 年後というテーマですね。
- ・前回から色々ご意見等お話しして、どのような感じか。

(座長)

- ・現在、10 年後をイメージしようというところで、まず、「外遊びの推進」というのは「遊び」が大切である。とにかく親子で遊ぶのが大事なんじゃないか。その中で子どもたちが体を動かすことが好きになる、毎日体を動かしたり自分で動かせるためのきっかけをつくったりするのは親からスタートするものではないか。その中で、やってみたいスポーツに転換していく。学校体育や部活動に繋がっていくのは、ベースは遊びだと考えます。
- ・古賀市の 10 年後は、公民館や公園で、親子で遊んでいる姿がたくさん見られるような形を想像している。
- ・学校に入ったときには、指導者が大きなポイントになってくると思う。小学校低学年では、基本的な跳ぶ・走る・投げる等の動作の指導の仕方を保護者にも周知して、還元していくというのが必要じゃないか。そういうきっかけづくりを広めていくことが出来ればと思う。
- ・運動部活動については、加入率の問題もあるが、学校体育の中でいろいろなスポーツに親しむ、それが部活動に繋がる。しかし指導者のなり手の問題とか課題もある。

(コーディネーター)

- ・人材の活用は難しい問題でもある。自分がやってきたことを活かすということにメリットを感じられるのかどうか。
- ・モデルを作って見える化することで、これだったらやってみようかとか出来るかもしれない。仕掛けている本人たちが分からなければ、乗ってこないということも考えられる。
- ・ひとつ提案として、「e スポーツ」の活用があると思う。身体活動＝スポーツ になると閉鎖的になるので、Wii とかゲームを活かして外でどう活用できるかを考えるのも手である。今後は部活動でも出てくるかもしれない。親からしても、ゲーム感覚でやるスポーツというのもきっかけとなり得る。キーワードとして持っておかれてはいかがか。
- ・子ども達も少なくなってくれば、あれもしたいこれもしたいと、多様化することも考えられる。
- ・例えばポケモン Go をウォークラリーに取り入れるなど、じっとしているよりは動きながらやるという仕掛けがあると、それで「歩く」という動作が出てくる。
- ・子どもに仕掛けて親もついてくれば、世代としての効果が生まれる。
- ・指導要領にも、「見る」「する」「ささえる」にも一つ、「考える」が加わると聞いている。これもキーワードになるのでは。
- ・10 年先は、意外と早い。オリンピックなどもきっかけに、更に加速するとも考えられる。

(座長)

- ・スポーツを考えたときに、2020 は大きいと思う。今の子どもたちは必ず 2 年後を見るので、そのときのイメージはその後の生活に大きく影響すると思う。

(コーディネーター)

- ・共通の記憶が出来ると、それは強みになる。皆で共有できる。
- ・国際大会をきっかけに、古賀市にもスケボーとか馬術場とかあるから、今後それを活かしていこうということで繋げていっても、古賀市にはこれがあるという強みになってよいと思う。

(座長)

- ・e スポーツについても、「多様な体験活動」の項目に入れてよいと思う。きっかけづくりに繋がっていく場面は多分にあると思う。

(委員)

- ・e スポーツだけではなく、見るスポーツ・支えるスポーツは今の子どもの分野にはないが、例えば野球はしていないがホークス戦は見に行くといったこともある。こういったことがまちづくりにも繋ぐヒントになる。支えようという姿とか、繋がるのでは。
- ・多様な体験活動に関連するか、よく太鼓とかあるがあれはスポーツか、文化活動か、区別が難しいものもある。クラシックバレエも同様。そういったものも含めて考えると、総合型地域スポーツクラブはスポーツばかりではなく囲碁将棋とかも入っている。皆が集まって何をやってもいいというスタイルである。自然体験もやっている。色々ひっくるめて、e スポーツもその中に入ってくるのだらうと思う。

(座長)

- ・そういう意味では、地域の公民館とか公園とか、「そこに行けば何かプログラムがあります。どうぞ皆さんそこに行って体験してください」という、そういう形は十分考えられるのではないかと。

(委員)

- ・アンビシャスはどこの学校でもあるわけではないと思うが、西小校区のアンビシャスでは公民館で、行けば何かできるという形になっている。前に見に行ったときは、卓球をやっていた。

(座長)

- ・青柳で毎週水曜日に活動している旧アンビシャスでは、事前に登録することで活動できるようになっている。ボール投げやシャボン玉などしているようだ。活動費の徴収などについては不明。

(委員)

- ・そういった活動を各公民館とかで出来るようになるとういと思う。

(事務局)

- ・やはり地域との繋がりには欠かせないものとなってくる。

(座長)

- ・そういったときに、地域の中で教えてくれる指導者とかが関わってくださったら、多様なものが出来ると思う。

(委員)

- ・アンビシャスに来る子どもたちの中にはスポーツをやっていない子どももいて、そういった子がターゲットとなる。

(座長)

- ・スポーツ少年団にも入っていない、家にいる子どもがそうやって来てもらえるとよい。

(委員)

- ・古賀市は、支えるスポーツというのがなかなか見えなくて、例えば福岡マラソンで前を通ったらふるまいがあったりするが、市のウォーキングでもそういったのがあると面白い。

(座長)

- ・元気アップチャレンジが今後どんな展開となるかは分からないが、そのスモール版が各地域で動くというのは10年後には必要になってくるのではと思う。地域の指導者がいて、例えば西小アンビシャスが軸になってもいいので、そこに行けば体験が出来るという、それはスポーツであってもいいし遊びであってもいい。いろいろなことができる場となるとよい。
- ・今、子どもが集まるスポーツ大会といえば育成会となるか。

(委員)

- ・以前はソフトボールをやっていたが、今は終わってドッジボールに変わっているようだ。

(座長)

- ・地域の組織として参加するようなものも必要と思うが、家族で参加できる大会というのも求められてくるのではないかと。

(委員)

- ・ファミリー運動会などがあると面白いと思う。家族で集まってチームを組んでいろいろな種目があるというのとよい。

(座長)

- ・他との競争になるけれど、家族が楽しんで、最終的に得点になるというのがあと面白い。
- ・第3土曜日は家族の日であるが、実はあまり周知されていない。そういう日に、古賀市の中に家族で行ったら楽しめるような場を設定してもよいかもしれない。それがスポーツの日となってもよいと思う。

(委員)

- ・古賀市で、家族でスポーツが楽しめる日が年間何回あるのかと思う。年間の中で参加してポイントラリー制とするのもよいのでは。
- ・定期的に、月に1回あって参加するという形もあってよい。

(座長)

- ・個人単発でやるのはきついで、地域の団体などと繋がってやって、市全体が関わりあってやれるとよいと思う。

(委員)

- ・ウォーキングは、家族向けというのはやっているのか。

(事務局)

- ・市民ウォーキングでは、5kmの短いコースをファミリーコースとして設定している。実際に小さい子ども連れの家族も参加している。

(委員)

- ・ジュニアスポーツなどでは、今まで何もやって来なかった子が、いきなり参加しようと思っても参加しづらい。友達が上手だったりすると参加しにくい。

(座長)

- ・10年後のジュニアスポーツはどのような風にイメージしたらいいのだろうかと思う。
- ・おそらく種目も増えているのでは。

(委員)

- ・今はラグビーとかも出てきている。新しい種目も入ってきて、選択肢も広がると思う。

(座長)

- ・今後は多様性というのも出てくると思う。

(委員)

- ・そういう意味では、例えば球技はできないけれどこれなら出来るという人たちも出てくるだろう。

(座長)

- ・種目が多様化するということは、市内で対応できないということもあり得るかもしれない。

(事務局)

- ・練習場所の確保という問題も出てくるかもしれないし、チーム構成上の課題も出てくるかもしれない。

(委員)

- ・コーディネーショントレーニングの教室とか、今後は出てくるかもしれない。
- ・団体への支援とあるが、今後体育協会に加盟しない団体も増えるかもしれない。それに行政等がどう対応していくのか。どんな指導者がいるとか、例えば体罰といっても、指導者は体罰ではなく指導だと、どなりつけていてもこのくらいはしないとダメという人もおられるかもしれない。

(座長)

- ・団体への支援というと、難しいが、考えられるのは学校体育や部活動との連携といったところでしょうか。団体の種目も、部活動と重なるところもあると思う。となると、中学校の部活動と何らか連携をとりながらやるとか、そしたら指導者が共有できるとか、そういうのが生まれてくるのではないだろうか。一緒にやることによって、団体の指導者が、それなら部活動の方もやろうかということにはならないだろうか。

(委員)

・そのような繋がりはほしいと思う。また、中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんたちが、種目を教えてくれるのはよいと思う。指導者だけではなく、上の子も下の子に教えるという体制もあっていいのでは。

(座長)

・小学校までジュニア団体に入っていた子が、中学校に上がって部活動に入って中学、高校と連携共同してやっていければよいと思う。そこで指導者の共有が図られて、学校部活動自体も活性化されることも考えられる。

(委員)

・今、元気アップチャレンジで西小では玄界高校の方が来られて、アンビシャスと一緒にホッケーをやっている。ホッケーをしたいから来ている子もいる。これも連携であるといえる。

(座長)

・竟成館高校や玄界高校、大学もあれば絡めて出来ることがあるのでは。

(委員)

・看護大があるので、看護大の生徒さんが食や体づくりの話とかと関連させてやるのも面白いと思う。

(座長)

・それも学校体育の充実に繋がると思う。
・市のイベントのときなどにブースを作って、食の大切さとか衛生面とか伝えるようなことをしても、全体として繋がってくるのではないだろうか。企業でもハウス食品などあり、スポーツと食の関係があると、古賀の一つの特性と出来るのでは。

(委員)

・福銀のグラウンドが市内にあって、冬には野球教室を、土日にはラグビーをやったりしているようだ。そういったのと連携して指導というのもよいと思う。他にももしかしたらあるかもしれない。九州高校もグラウンドがあり、ああいうところで野球を教えてもらうとか、活用も考えられるのでは。

(座長)

・古賀の子どもの育成、スポーツの振興のために、そういう財産を活用していけるとよい。
・以上で、本日の部会は終了する。ご協力有り難うございました。